

1 研究のねらい

新学習指導要領の改訂のポイントが公示され、「主体的・対話的・深い学び」というキーワードが出された。その方針を受け、これからの時代を生きる子どもたちに必要な力を身に付けさせたいという思いから本主題を設定した。これからの社会は将来の変化を予測することが困難で、様々な課題に対しコミュニケーションを図りながら解決しなければならない。その上で、「聞く・話す」力は重要である。また、主体的に対話を交わし、それらを繰り返すことで学びも深まると考えた。

本校の児童の実態として「まじめ」「大人しい」「素直」「表現が苦手」「受動的」などが挙げられるが、「主体性」「向上心」「表現力」などが十分に身に付いていると言えない。そこで、児童の意識と言語スキルを高めるために本主題を設定した。相手に伝わりやすく話す経験を積み上げることができれば、身に付けたい力が向上すると考えた。また、「聞く」態度はとてもよいが、聞いたことを十分に生かしているとは言えない。しっかりと聞き、それを行動に移せるようになってほしいという願いも込められている。

2 研究の概要

「聞く・話す」力を国語でしっかりと身に付けさせ、他教科や日常生活においても相手意識をもって聞いたり相手を意識して伝えたりすることができる子どもを育成するために、めざす子ども像として「国語の力を高め、他教科や自分の生活に生かしていくことができる子ども」と設定した。

3 研究の内容

主題を解明するに当たり、次の三つの仮説を立て、全職員で取り組むことにした。

〔仮説Ⅰ〕

子どもの興味関心を高めたり、見通しをもたせたりすれば、自ら進んで主体的に学習を進める子どもを育てることができるのではないか。(自ら学び)

〔仮説Ⅱ〕

話したり・聞いたりする具体的な方法を身に付けさせれば、考えを伝え合うことができる子どもを育てることができるのではないか。(考えを伝え合い)

〔仮説Ⅲ〕

国語で学習したことを生かす場面を設ければ、学びを深めていこうとする子どもを育てることができるのではないか。(学びを深めていく)

4 研究の実際

(1) 環境整備の共通理解

ア 「声のものさし」の作成

自己表現を明確にするために声の大きさの規準を設けた。

イ 聞き方「あ・い・う・え・お」、

話し方「か・き・く・け・こ」の作成

聞くときの態度、話すときの態度を分かりやすく五十音にし、全校児童に提示した。(資料1・2)

(2) 実態調査から作成した「学習指導要領 話すこと・聞くこと」の目標の構成図

学習指導要領の「話すこと・聞くこと」の領域の目標を

〔資料1〕

- あ … 相手の顔を見て
- い … 意識して
- う … うなずきながら
- え … 笑顔で
- お … 同じかどうか考えながら

〔資料2〕

- か … 顔を見て
- き … 聞き取りやすく
- く … 口を開けて
- け … 結論を先に
- こ … 心をこめて

